

---

# **魔法先生ネギま! ~暇人の転生~**

裕介

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

魔法先生ネギま！（暇人の転生）

### 【Zコード】

Z0912Y

### 【作者名】

裕介

### 【あらすじ】

何処にでもいそうな少年が死に、転生をする。転生後の姿はネギ！？神からいくつつかの能力をもらいネギまの世界で悪戦苦闘（笑）をするお話です。チート、駄文、亀更新でもよいという方はぜひお読みください。

## 注意書き

「この小説を読むにあたっての注意」

- ・この小説の作者は現在高校受験の真っ最中です、途中で打ち切りや削除などをするかもしれません。
- ・作者は初心者です、生温かい目で見てください。
- ・亀更新？いいえそんなものじゃ言いあらわせません。
- ・クレーム等はお控えください作者の豆腐メンタルが飛び散ります。
- ・修正してほしいところ、誤字脱字などがあればひ言つてください。

これらのこと我が許容できない場合は、ブラウザの戻るを押すかページを閉じる、ログオフ、シャットダウン、パソコンの粉碎のいずれかをやって下さい。

## 1話 転生（前書き）

やってしまった。ついでやってしまった。まあ、打ち切りにならな  
いよう頑張ります。

## 1話 転生

俺は中学三年生だった。朝起きて、学校へ行き、帰つて来て、勉強をして、寝る。日常はほとんど変化がなく、刺激も何もない平凡な時間だけが過ぎていた。このことを羨む人もいるだろう。だが、俺はこの生活に飽きていた。学校の成績のいい奴、スポーツのできる奴、イケメン、このような人たちが、この日常の主人公だとしたら、頭も普通、スポーツの人並み以下、顔もいいわけでもない俺はきっと脇役、良くて主人公の友人F程度だろうと思っていた。

ある日、また同じ日常が過ぎていくのだろうと俺はその時まで思っていた。そう、目の前に車にひかれそうになつた少女を見つけた時までは。俺は気が付くとその少女を突き飛ばし、もう逃げることもできないところまで車が迫つていた。このときからの記憶はない。だが、俺はたぶん笑つていたのだろう。なぜなら俺は日常の脇役から非日常の主人公へと変わりたいと願つていたはずなのだから。俺は転生という人生の転機を望んでいたはずなのだから。

と、恰好をつけたものの、

俺「此処は何処なんだー！」

れれれ冷静になれ、まずは落ち着いて現状を整理しよう。

通学

ひかれそうになつた少女発見

代わりにひかれる

白い空間 いまここ

死んでるよね！俺、Ｓ「そのとつりだ。」

俺「誰だ！」

？「神だ！」

其処にいたのは金髪イケメン……死ねばいいのに。

神「神に向かつて死ぬとは何事だ！」

心を読まれた！神というのは嘘ではないようだな。

俺「何で神様が俺のところに？俺はただの名もなき亡靈ですよ。」

神「お前が千年に一度ぐらいでおきる世界の矛盾によつて死んだんだ。実際は膨大な量の矛盾に耐えきれずに魂が碎け散つてしまうから俺ら神々が集めて直さなくちゃならねえんだが、お前の魂は矛盾に耐えきつたんだ。そこで、神々が話し合つた結果、お前を転生させることにした。転生先は【魔法先生ネギま！】で、願いは6つまでだ。それと、あの少女は助かっただぞ。後遺症もない。」

まさかの転生！死んで、友人や家族に会えないのは残念だがラッキーだ。つとその前に。

俺「世界の矛盾って何だ？」

神「世界には必ず矛盾というものが生じる。それがどんどん溜まっていき世界を圧迫していった時、世界は自身を守るために一人を生贊にしてそこに矛盾を流し込むんだ。今回がお前だったってことだな。」

俺「そうか。分かった。じゃあ願いを言つべ。

- 1・東方Projectの能力
- 2・NARUTOの影分身
- 3・鍛えた分だけ強くなるステータス
- 4・一秒が1不可説不可説転年になるダイオラマ魔法球
- 5・どれだけの知識を詰め込んでも大丈夫な脳
- 6・俺の助けた少女を幸せにしてやってくれ。  
以上だ。」

神「最後のはそれでいいのか？お前にはもう関係ないんだぞ。」

俺「特に思いつかないしな。それに田の前で人がグロ画像のようになつたらトラウマだろ、それにいじめられるかもしれない。そしたら、俺のせいじゃないか。」

少なくとも俺はトラウマになるな。

神「命を助けただけでも十分だと思うんだが…。まあいい、一番問題なのは4だ。なんだ1不可説不可説転年つて。何するつもりだよ。1時間もいればそこら辺の神より年上になるぞ。」

俺「修行するつもりだがダメか？」

神「まあいいや、お前はネギとして生まれる。能力とかは悪魔襲来のあとに渡すぞ。」

俺「分かつた、じゃあな。」

神「ああ、気を付けろよ。



吸い込まれるぞ。」

俺の隣に穴が開いた。と同時にその穴にものすじい勢いで吸い込まれた。

俺「ちよおおおおおお……」

（神 sides）

神「行つたか。」

まあ、全力でアフターサービスをしてあげましょうかね。

## 1話 転生（後書き）

いかがでしょうか。はい、駄文ですね。しょうがないじゃないか！俺だって好きで駄文を書いているわけじゃないんだ！誰か俺に文才を分けてくれ！

まあ、頑張つていこうと思います。応援（してくれる人がいるかわかりませんが）よろしくお願ひします。

## 2話 転生後（前書き）

ダメだ。駄文すぎる~~~~~（泣）マジで文才がほしいです。  
とこつわけで第2話ひつわ。

## 2話 転生後

転生して数年が経つた。ネカネ姉さんやアーニャと仲良く過ごしておらず、平和な毎日である。【火よ、<sup>アールデスカット</sup>灯れ。】も使えるようになり、おそらく悪魔襲来はもうすぐだろう。憂鬱だよ。

そんなこんなで悪魔襲来

目の前で石化する人々を見ていると逃げることしかできない自分が悔しい。そのうち、石化を解きにこよひ。今はネカネ姉さんやスタンさん、父さんを探すことが最優先だ。

少年探索中

スタンさんとネカネ姉さんを見つけた。

ザツ

ネギ「つー?」

後ろに悪魔が!?.避けられない!

ネカネ「ネギ!」

ネカネ姉さんとスタンさんが僕を庇つて石化され、ネカネ姉さんの足が砕けた。

ネギ「姉さん!」

スタン「【六芒<sup>ヘキサグラム</sup>の星と五芒<sup>ペンタグラム</sup>の星よ悪しき靈に封印を封魔の瓶!】<sup>マロース・スピリトウタギレントラガーナ・シグナートーロア</sup>

スタンさんがスライムとヘルマンと思われる悪魔を封印した。

グガアアアア

また悪魔達が召喚された。一体が此方にむかって爪を振り下ろしてきた。避ければネカネ姉さんにあたる! ? クソツ !

ネギ「がつ !」

痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い ! 背中が焼けるように痛い ! 他の悪魔達も近づいてくる。能力も貰えずに死ぬのか。

「ウ

目の前の悪魔達が消し飛んだ。これは…。

? 「大丈夫か ! ネギ !」

ネギ「父…さん…。」

意識が消えそうになるが声の主を探すと、父さんが駆け寄ってきた。

ネギ「遅いよ…英雄…。」

そつ眩いたところで意識が途切れだ。

## 2話 転生後（後書き）

みじけえ！すゞくみじけえ！

修正してほしいところ、アドバイス、感想、誤字脱字などがあれば  
言ってください。マジお願いします！

3話 神ふたたび（前書き）

木曜日・金曜日テストなんだよ…………勉強なんて大つきらこだ——

-----!

### 3話 神ふたたび

田を覚ますと死んだとき[に]来た白い空間にいた。やつぱり死んだのか「いや、まだ生きている。お前の父親が魔法薬を使って治していつたぞ。」ん？神様か。

ネギ「じゃあ、何で僕は此方にいるんですか？」

神「転生の特典とオマケを渡すためだ。」「

ネギ「オマケ？」

神「ああ、死なないようには設定してあつたが大怪我をさせてしまつたからな。」

ネギ「どんなのなんですか？」

神「ああ、いくつかの武器だ。それともう一つ、お前が死にかけた事で発現した能力だ。それは……」

ネギ「それは？」

神「直死の魔眼だ。」

ネギ「此処はネギまの世界ですよ？何で型月の能力が？」

神「型月でいう根源は此処のことだからな、一回も来たら使えるようになるんじゃないかな？」

ネギ「そうですか。」

神「じゃ、頑張れよ。アイテム達は影の中に入れてあるから念じたら取り出せるよ。」

ネギ「ありがとうございます。」

会話が終了したら呪下に穴が開いた。

ネギ「またですかああああああああああああああああ。」

ネギ「俺はあるの時言わないと誓つたんだ。」

ふざけたことを言つた後、とりあえず現状を確認してみた。ここは病院らしき所。近くには父さんの杖もあつた。傷は痕が残っているが痛くはない。

ネギ「とりあえず誰か人をよぼつ。」

俺はそう呟いてナースコールに手を伸ばした。

6年後（作者の文才が足りません）

なんやかんやあつて魔法学校を卒業した。え？何があつたか？原作と同じだつたよ。あと、タカミチにも会つて感卦法や居合拳を見せてもらつた。口調が変わつたのは身体になじんできたからだと思うよ？

アーニャ「ネギ、何て書いてあつた？私はロンドンで占い師よ。」

ネカネ「修行の地はどこだつたの？」

ネギ「今浮かびあがるとこ。お…」

アーニャ「どう…」

書いてあつたのは【麻帆良で魔法教師をし、2人の吸血鬼の呪いを解くこと】

ゑ？

『ええ――つ―つ』

アーニャとネカネ姉さんは校長に抗議しに行つた。

原作と内容が違う？転生者ではないよね。イレギュラーかな？どちらにせよエヴァの呪いは解くべきだろうし。けど、いまのままじゃエヴァから身を守れないし。魔法球を使った方がいいかな？でも強

くなりすがてもなあ……。でも、吸血鬼2体はキツイよなあ……。  
そんなことを考えていると姉さんとアーニャが帰ってきた。

ネギ「どうだつた?」

姉さん「変更は無理だつて……」

アーニャ「もう決まつちゃつたんだから頑張つてきなさいよ。死ぬ  
かもしれないけど……」

ネギ「ちゅう、シャレにならないよー。」

アーニャ「校長はその2人はおとなしいって言つてたから大丈夫よ、  
きっと……」

ネギ「きっとか……まあ、死なない程度には頑張るよ。」

ネカネ「無理はしないでね。ちゃんと連絡を寄越すのよ?」

ネギ「分かつてるよ。」

原作より心配してゐるね。まあ、吸血鬼2体だからなあ……。早めに用  
意しておひや。ヒュアだけでも仲良くしておけば死ぬ確率は下がる  
し。

~その日の夜~

ネギ「影分身の術!」

ボン

ネギ「それ、それに体術、魔法、東方の能力、直死の魔眼の修行をしてきて。」

入った瞬間に解除、つ！意…識が…も…う…無理…

目が覚めたら白い空間にいた。あれ？デジヤブ？

神「おい。」

ネギ「神様、どうしてどうして僕はまた此処にいるんです？」

神「それはお前が神になったからだよ。しかも、最上級クラスの。」

ネギ「W h y？」

神「神が生まれるのは2パターンあつてな。人間の信仰の集合体から神になるのと、生き物が長い時間と信仰によつて変化するのだ。

お前、あの魔法球でとてつもない時間修行してただろ？」「

ネギ「けど、僕は信仰なんて…。」

神「正義の魔法使い（笑）は？」

ネギ「あ。」

原作でも狂信者だったからありえるよ。

神「まあ、まだ生きているから半人半神だし大丈夫だろ。それでも魔力とか気とかは人を逸脱してるし神力も俺ぐらいはあるし、ここにも望めば来れるけど。」

まあ、目的は強くなることだつたらしいよね。

神「まあ、神になったから特典として3つだけ願いを叶えてやる。」

ネギ「じゃあ、影分身を魔法にして。」

神「いいぞ。ついでに他人も使えるようになつたがオススメはしないぞ、やりすぎたら脳がパンクして死ぬし。具体的に言うと急激に高熱が出て脳の細胞が死んでいつて、最終的に目とか鼻とか耳から流れ出す。」

グロッ！

ネギ「それはやらせない方がいいね。考えただけで気持ちが悪くなるよ。まあ、それは置いておいて、次は魔法球と影分身を父さんの遺産ということにして。」

神「過去を変えることになるがまあいいだろ。お前の父親が俺からも「うつたつてことにしておくぞ。もとも、俺が神だとは知らんがな。」

ネギ「最後に攻撃を非殺傷、というより物理的ダメージをなくせるメソとして。あ、でも痛みはあった方がいいかな。」

神「分かった、その力は普通に使つたら魔帆良が壊滅するしな。ついでにリミッターをつければどうにかしてやるよ。」

ネギ「ありがと。あ、そうだ、エヴァンジョンとは違つむつ一人の吸血鬼のことを知らない?」

神「ああ、あれか。あれは俺の趣味で選んだ。まあ、転生者ではないから安心しろ。ちょっとしたクロスだと思えばいい。もしかしたらイレギュラーが増えるかもしれないけど。」

趣味にクロスか……、吸血鬼ってそんなに思いつかないけど……

ネギ「そうか、ありがと。それじゃあ、また。」

神「ああ。あと、教えてなかつたが俺の名はゼウス(仮)だ。」

ネギ「え、ゼウスって最高神じゃ……」「気にするな。そんなことよりも上を見てみたらどうだ?」  
「…?」

上に穴が開いた。そこからよくわからんモノ(リリカルな世界の闇の書の防衛システムに似てるかも)が出てきた。

ネギ「今度は上かああああああああああああああ…とこうよつキモツ…むし  
るグロツ！え、おい、ちょ、おまつ！クソツ、からみつくな…ちょ  
つーおい、ゼウスーなんとかしろおおおおおおおおおおおおおおおおお  
おお……」

ゼウスの奴はいったい何時になつたら普通に送り送つてくれるのや。

3話 神ふたたび（後書き）

はい、駄文ですねwwwもう、ダメボ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0912y/>

魔法先生ネギま！～暇人の転生～

2011年11月17日21時09分発行